

## 1) ベット生活の多くなった DMP 児の 生活指導

国立療養所長良病院

平田 まさ子      松原 茂代  
綿貫 弘美      高橋 まり子

### < はじめに >

DMP 児は病状が進行して来ると、必然的にベット上で一日の大半を送らなければならない。それに伴って彼らの生活内容は大きく変化し、そこに余暇時間の利用方法とか、活動、思考可能な内容などが問題となってくる。

入院児の半数近くが、中学校卒業生で占められる当あかつき病棟の特質から考えて、年々多くなりつつあるベット生活者の生活を通して活動的、精神的な問題などをあらいだし、その改善方法を考えていきたいと思い、この事例をとりあげた。

### < 研究の目的 >

ベット生活の DMP 児に、円満な生きがいのある入院生活を送らせるために、職員との融れ合いを通して、患児のもつ問題を分析し、生きがいに通じる素材を見つけ、自発的によりよい姿勢で生活できるようにさせたい。

### < 研究の方法 >

ベット生活を余儀なくされている DMP 児 1 名を対象に

- ①日常生活の中で生じる問題をあらいだす。
- ②患児が何をのぞんでいるか。
- ③どんな姿勢で日々をすごしているか、観察究明し
- ④その場面、場面で改善方法を考えていく。

### < 実践過程とその考察 >

#### ①対象児のプロフィール

15 才 男子 D 型で 障害度ステージ 7～8。

日常生活は全て介助を必要とする。昭和 51 年 3 月に中学校を卒業し、ししゅうの作業班に籍をおく。

#### ②日常生活状況

作業 訓練には参加したがらず、ベット生活を好み、性的描写の多いテレビ、本に関心を示す。話しをかわす友人はなく、集団での催しには、おやつを食べたい一心で参加しているようす。比較的話題になるのは、観光地図やお城・汽車のカラー本、スポーツ紙等で限られている。

#### ③日常生活上の問題点

(ア) 5月頃から喀痰・咯出の困難が目立ち、午前中ベットで過す日が多くなり、余暇時間の過ごし方、即ち生活制限からテレビ・写真ぐらいの生活内容に限られてきた。

(イ) 友人がなく、いつも精神的な孤立状態にいる。

(ウ) 性的な雑誌・テレビを見たがる。(マンガ・テレビ・写真などで、文章化された雑誌は見たがらない。

(エ) 食事・睡眠を気ままにしたがり、集団としての作業・訓練・入浴・行事など、徐々にいやがる。

#### ④実践と考察

(ア) 規律正しい生活をめあてに、本児と日課表を作成する。

(イ) 日課表に従って病棟職員の一貫した指導を徹底した。

(ウ) 行事・コンサートなどの集団活動には約束として参加させた。

(エ) 無理に性的描写を遠ざけるのではなく、余暇利用の方法に併せて、他のことに関心をむけさせようとした。

このような問題解決の糸口を焦点化して実践を進めてきて、徐々にではあるが、明朗さ、興味の拡大、職員、他児との融れあいが芽生えつつあることが認められてきたが、遂に帰らぬ人となってしまった。

## 2) ホスピタリズムの条件分析とその 対策法の究明

国立療養所長良病院

丸尾正志 槇島 晃

清水敏男

### <はじめに>

長良病院筋ジス病棟においては、子どもたちのいわゆるホスピタリズム傾向が強く、病棟生活においても、学校生活においても常時その扱い方が話題になっていた。先輩の研究によると、この傾向についての解釈は種々あり、どの説が本質をついたものかわからないが、現実に毎日接している子どもたちをみると、何らかの手だてを加え、少しでもこの傾向が軽減できたらと思うものである。そこで今回は、学校教育場面での指導内容・配慮面について研究し、DMP教育指導の一側面として考えてみたものである。

### <研究の目的>

いわゆるホスピタリズム的傾向を分析し、その原因となっている諸条件を整理し、学校教育場面において、どのような指導の手だてがあるかを実践を通して試み、改善の手がかりを得る。

### <対象児>

長良病院養護学校DMP児童・生徒 26名

### <研究の方法>

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<はじめに>

DMP 児は病状が進行して来ると、必然的にベット上で一日の大半を送らなければならない。それに伴って彼らの生活内容は大きく変化し、そこに余暇時間の利用方法とか、活動、思考可能な内容などが問題となってくる。